

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

居住地校における交流及び共同学習



〈本校の居住地校交流及び共同学習の進め方〉 今年度は11名が希望 約30回交流予定（集会・ゲーム・調理等）

- 1 保護者や本人に居住地校交流の希望調査を実施（4月）
- 2 交流及び共同学習を希望する地域の学校へ趣旨説明→電話後に学校訪問（5月）
- 3 交流及び共同学習の事前学習として、交流校で出前授業の実施と作品展示を開催



〈出前授業の感想〉

- ・みどり学園には、小学生から高校生までいることをはじめてわかりました。
- ・車いすに乗ったら、やさしさと、ありがとうの気持ちになりました。
- ・今度〇〇さんが交流にくるので、仲良くして友達になれるといいなと思います。
- ・体をうまく動かすことのできな人も同じ人だから、特別じゃなくてみんなと同じくして遊んで仲良くなりたいです。
- ・言葉が伝わらなくてもジェスチャーなどのように工夫をすれば、自分の思っていることが伝わるといことがわかりました。
- ・作品展示と出前授業をセットで実施したことで、子どもたちがみどり学園のイメージをもつことができました。（先生）
- ・交流する対象児童のことを分かりやすく説明してくださり、会えるのが楽しみになりました。子どもたちも一緒に時間を過ごすのが楽しみにしていました。（先生）

- 4 交流及び共同学習の打合せと指導案づくり（交流校担当者と学級担任）
- 5 交流及び共同学習の当日（対象児童は自宅から保護者と一緒に小学校に登校）



〈交流の様子〉「ジェスチャーを使ってあいさつをしよう」～感情を英語と動作で表現＆〇〇さんの紹介～

- ・お互い保育園の時から知っていること、楽しく触れ合えるゲームが用意されていたこと、出前授業を通して交流への期待感が高まっていたことから、温かい雰囲気での活動ができました。対象児童に関するクイズコーナーでは、正解すると自然に拍手が起り、一気に心の距離が縮まりました。最後の記念写真では、みんなが笑顔いっぱいの表情でした。それは、これからも同じ地域で支え合ったり、励まし合ったりする仲間として絆を紡いだ瞬間でもありました。
- ・保護者と一緒に帰る対象児童にいつまでも手を振る相手校の子どもたちの姿に、直接触れ合うことが、お互いを理解し合う一番の近道であることを実感しました。

- 6 手紙や感想文の交換 ※双方の担当者が評価を行い、次回の計画につなげる

